

平成21年1月9日

各 位

上場会社名 株式会社 パナソニックグループ
 代表者 代表取締役グループ代表兼社長 南部 靖之
 (コード番号 2168)
 問合せ先責任者 取締役専務執行役員 川崎 悦道
 (TEL 03-6734-0200)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年7月25日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年5月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年6月1日～平成21年5月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	248,920	5,500	5,810	2,560	6,705.57
今回発表予想(B)	224,730	3,790	4,220	1,040	2,775.57
増減額(B-A)	△24,190	△1,710	△1,590	△1,520	――
増減率(%)	△9.7	△31.1	△27.4	△59.4	――
(ご参考)前期実績 (平成20年5月期)	236,945	6,444	6,637	2,962	7,109.95

修正の理由

当期におきましては、足元の急激な世界経済の減速による企業収益の悪化により、景気の先行きが不透明であり、今後、さらなる落ち込みまでも予想されています。こうした経営環境下において、昨今の新卒、第二新卒等、正社員の積極採用により、人員の余剰感を抱えた企業では、正社員を含めた人員の引き締め傾向が顕著となってきています。一方で、これまで慢性的な人手不足であった中堅・ベンチャー企業やサービス業では、人材の獲得に向けた動きが見られるなど、企業毎、業界毎に異なる雇用情勢となっています。

当社グループが手がけるオフィスワークを中心とする人材派遣事業においては、足元では新規の求人受注総数の減少が見られましたが、一方で、より専門性の高い職種に対する需要や人手不足感の強い企業・業界からの需要は堅調に推移しています。また、派遣スタッフの終了件数が前年同期比で減少しており、平均契約継続期間も伸長するなど、長期安定化傾向も続いています。

また、上期においても順調に推移した再就職支援事業、アウトソーシング事業については、引き続き需要が堅調であることに加え、集中的な資源配分の実施など総合化戦略の推進により、着実に実績を積み上げる見通しです。

しかしながら、今春以降の人材需要の見通しについては不透明な面が否定できず、慎重に見ざるをえないことから、人材派遣事業、人材紹介事業を中心に、通期の売上高の期初計画を見直すことといたしました。経費の削減、見直し等により、販管費は期初計画に比べ抑制を進めていますが、売上高の期初計画未達による、売上総利益の減少を吸収するまでにはいたらず、営業利益、経常利益、当期純利益についても修正するものです。

尚、経常利益に対して当期純利益の減少幅が大きいのは、連結子会社の少数株主持分利益が拡大することに加えて、第2 四半期にて子会社の繰延税金資産の一部を取崩すこととしたこと等によります。

来期以降、企業における雇用調整がさらに進むと、専門性が高く、かつ安定的な人材派遣に対する需要は景気に先行して回復するものと見ております。底打ちからの人材派遣需要回復に備え、当期においては、派遣スタッフの教育研修の拡充や優秀人材の囲い込み等の施策を実施するとともに、中長期を見据え、アウトソーシング事業など成長分野への資源配分を継続し、中長期的な成長の実現を目指してまいります。

同時に、より強いグループ経営を推進するべく、グループ事業の再編やオフィス等の業務インフラの集約化を含めたグループ戦略を推進し、景況に左右されない強い体制の早期構築をすすめてまいります。

※上記の予想は現時点で得られた情報に基づいて算定したものであり、実際の業績はさまざまな要因によって異なる結果となる可能性があることにご留意ください

以上